

## 国内の動き

### 時松孝次会員「平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）」を受賞

時松孝次会員（東京工業大学教授）が、平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受賞しました。受賞対象となった研究は、同君が長年取り組んできた地盤地震工学分野のテーマで、「地震時の地盤挙動とその建物被害への影響の評価に関する研究」と題するものです。授賞式は、平成21年度科学技術週間特別行事の一環として、4月14日（火曜日）、東京虎ノ門パストラルで行われ、受賞者には表彰状と科学技術賞楯（写真－1）が贈られました。本年度は、科学技術賞118件（研究部門47件）の受賞がありましたが、建設分野の受賞者はわずかで、東工大の土木・建築分野はもとより、本学会においても名誉であり大変喜ばしいニュースだと思えます。

巨大地震での被害が、地盤の応答と地盤変状の影響を大きく受けることは周知のとおりです。本研究は、その両方、すなわち、表面波を利用した簡便な地盤構造探査法とそれに基づく地震動・建物被害予測手法の開発、ならびに、地震時の液化発生予測法・地盤変状予測法と液化・側方流動地盤における杭基礎耐震設計法の確立

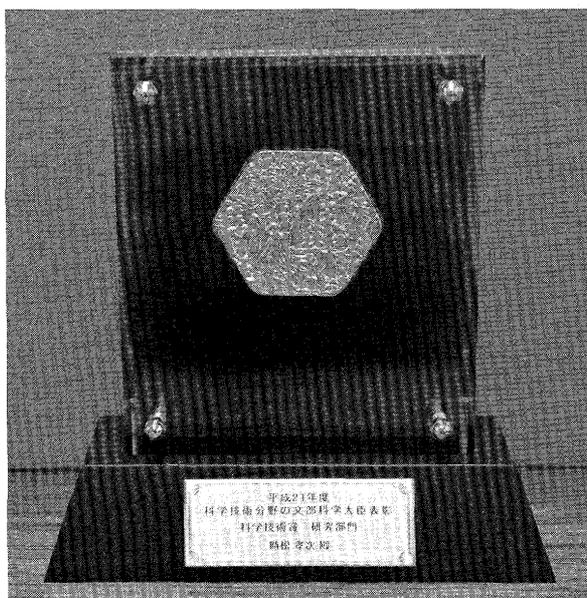
に関する課題に取り組んだものです。

本研究により、微動が表面波からなることが明らかとなり、表面波の性質を利用して、地表に配置したセンサー情報から、ポーリングなしに、簡便に地盤の多次元構造を把握する手法が開発される道筋が開けました。これに基づき、地震時の地震動・建物被害の空間分布予測を簡便に行う方法が提案されました。さらに、地盤の液化発生危険度と地震時の地盤変形量の簡便予測法が示され、液化・側方流動によって生じる地盤変位の影響を適切に評価できる杭基礎の耐震設計法が提案されました。これらの成果は、国内外で多数引用され、また設計指針などにも反映され、地盤地震工学分野の学術、技術の進展に貢献してきました。

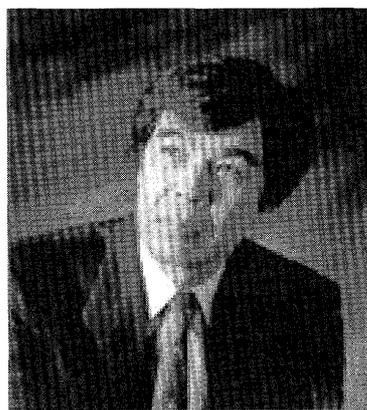
同君の受賞に心から祝意と敬意を表するとともに、今後のますますのご活躍を期待してここに紹介させていただく次第です。

（文責：日下部 治 東京工業大学教授）

（原稿受理 2009.5.21）



写真－1 科学技術賞楯



写真－2 時松孝次会員